

## 第2分科会

2024年7月7日(日)

### 「地域の生産者や食品メーカーとの共存のため、生協は何ができるのか？」

小売業界では大手資本を中心とし、魅力的なPB商品の開発や低価格化を実現するため、スケールメリットを巡る競争が激しくおこなわれています。生協でも事業連合による共同事業が広がり、今では多くのコープ商品の開発機能が単協から事業連合へと移っています。ただその一方、商品の調達や開発に関わる単協レベル独自の活動すべてが失われたわけではありません。むしろ、一部の商品については、単協が主体となり地域の生産者や企業との連携を通じて調達・開発された独自性の高いものもあります。

本分科会では、地域生協が地域の生産者や企業との密接な連携を通じて調達・開発した商品を事例として取り上げ、そうした商品の調達・開発が生協及び、その取引先である地域の生産者や企業に対してどのような意義をもち、いかなる効果を生み出すのか、ということについて検討したいと思います。(下門 直人)

分科会で報告をいただいた方々

#### 報告Ⅰ



白石 一夫 ・ 辻井 孝裕  
(生活協同組合コープしが) (丸栄製パン株式会社)

#### 報告Ⅱ



川澄 亮太 ・ 森 政広  
(コーミ株式会社) (生活協同組合コープあいち)

#### 報告Ⅲ



角田 祐子・湯原 拓也・小林 健吾  
(島根中酪株式会社) (生活協同組合しまね) (生活協同組合しまね)

#### 報告Ⅳ



備瀬 知晶  
(生活協同組合コープおきなわ)



久場 興志  
(株式会社沖縄ホームル)